

0歳から18歳までの一貫教育のまち 『おおつち一貫教育推進』かわら版

大槌町は、教育を「つなげる」「ひろげる」まちです。

令和6年7月16日(火) No. 22

文責

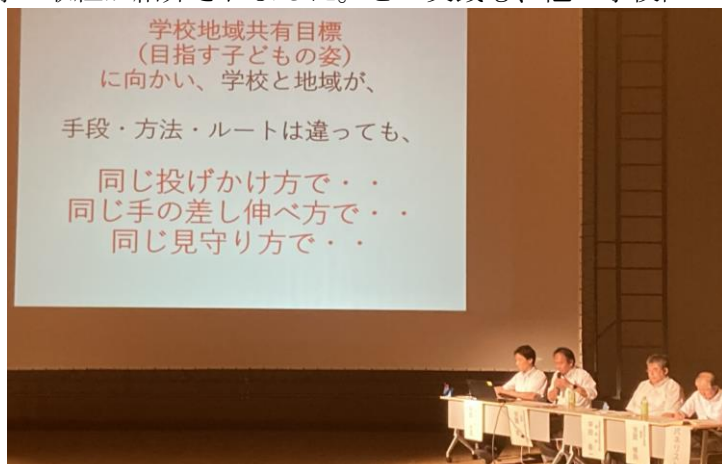
教育委員会学務課 吉田

○大槌町の「コミュニティ・スクール」と「ふるさと科」は一体である。

去る、7月2日(火)「令和6年度 地域とともにある学校づくり推進フォーラム」が開催され、吉里吉里学園小学部 阿部 光浩 副校長、吉里吉里学園中学部 平田 善一 副校長、吉里吉里学園学校運営協議会 芳賀 新 会長、吉里吉里公民館 芳賀 博典 館長が発表者やパネリストとして参加しました。

発表では、学校と地域が目指す子どもの姿を共有し、同じ投げかけ方で、同じ手の差し伸べ方で、同じ見守り方で取り組んでいる「郷土芸能伝承活動」、「避難所運営訓練」、全国防災未来賞ぼうさい甲子園でグランプリに輝いた「巾着プロジェクト」等の取組が紹介されました。どの実践も、他の学校区に、大変参考になる取組だったようです。

大槌町の「コミュニティ・スクール」は、平成28年度に始まり9年目を迎え、ますます充実してきました。大槌町の「コミュニティ・スクール」は、「学校運営協議会」で協議(熟議)したことを実現するために、「地域学校協働活動」として取り組んでいく仕組みであり、大槌町の「コミュニティ・スクール」と「ふるさと科」は一体のものであることが、吉里吉里学園の皆さんの発表から確認できました。



○個別最適な学び先進地視察①

7月6日(木)天童市立天童中部小学校を視察してきました。

天童中部小学校は、奈須先生の「個別最適な学びと協働的な学び」の本で舞台となっている学校で、マイプラン学習(単元内自由進捗学習)、自学・自習(児童が教師役をして授業を進める)、フリースタイルプロジェクト(学ぶ内容や方法、計画を自分で決め進める)に取り組んでいます。

当日は、奈須先生も参観されていて、10月9日(水)の学校公開に向けて、指導・助言されるということでした。

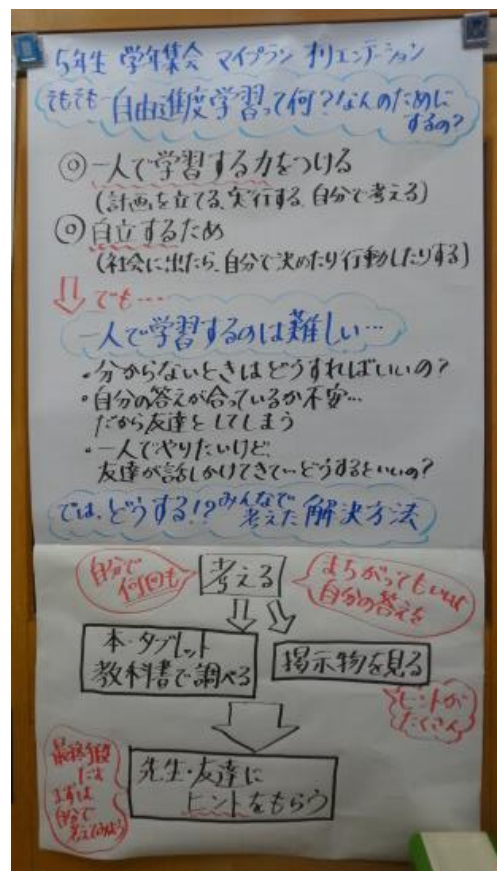
マイプラン学習では、年3回程度、2教科の1つの単元を組み合わせて行っているそうです。

児童は、1単位時間に、2教科から1教科を選択して、自分の計画で、思い思いの場所で、学習を進めていました。廊下や空き教室の資料の展示も充実しており、学びの資料がいたる所に準備されていました。(この点は先生方の負担が大きいので、「簡略化してもよいのでは」と思いましたが。)

ことばの使い方についての掲示もしっかりしており(裏面)授業で児童が使いこなすことができていました。

大槌町では、大槌型授業スタイルとして「対話的な学び」である「学び合い」や「協働的な学び」である探求的な学習活動「ふるさと科」等に力を入れてまいりましたが、今後は並行して、「個別最適な学び」である「単元内自由進捗学習」と、「協働的な学び」を一体的に充実させ、「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指していきたいと考えています。

すでに「単元内自由進捗学習」の実践を積み重ねている先生方もいらっしゃいますので、そのお力お借りしながら、来年度、町内の研修会等も充実させてまいります。



天童市立天童中部小学校からの学びの紹介



授業を充実させるための手立て「ことばの使い方」



普段の授業も実施していました。児童が「見方・考え方」を働かせて、角度にたどり着きました。



思い思いの場所で学ぶ児童



廊下も学びの場です。